

白馬村観光地経営ビジョン 前期アクションプラン（素案） （2026～2029年度）



2026年6月
白馬村





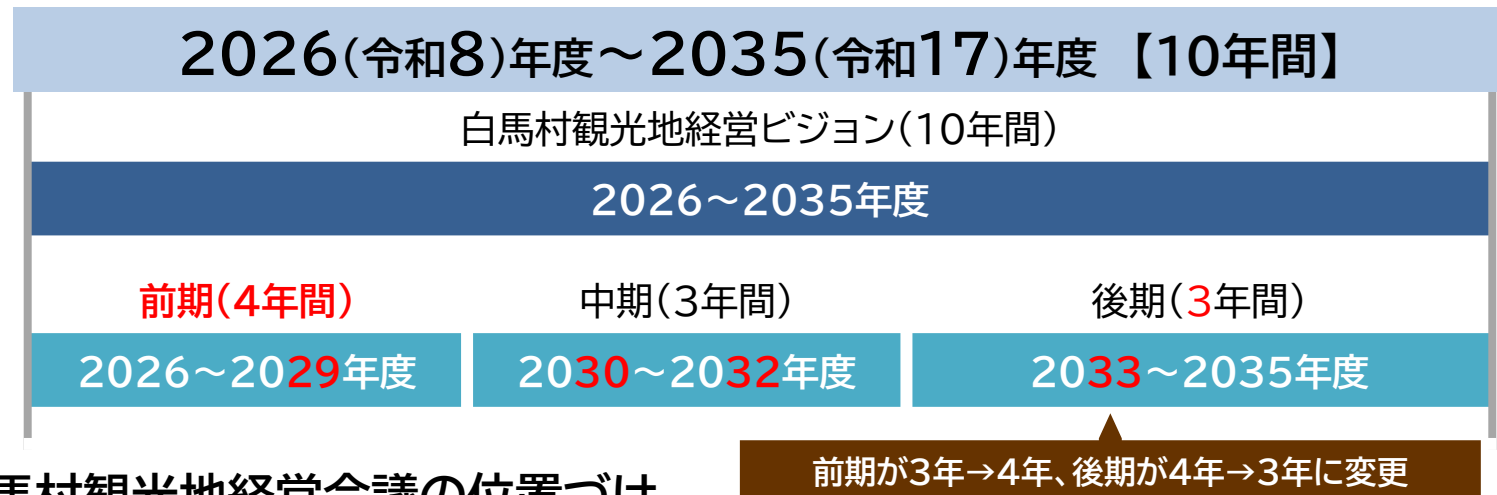
第1章 はじめに

* 白馬村観光地経営ビジョン・白馬村観光地経営会議の位置づけと全体方針

○白馬村観光地経営ビジョンの位置づけ

- ✓ 本ビジョンについては、「白馬村持続可能な観光地経営に関する条例」に記載されています。
- ✓ 本ビジョンは、持続可能な観光地経営の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るためのものです。
- ✓ 本ビジョンは、宿泊税の使途を定めるものでもあります。宿泊税の使途は、本ビジョンに定める経営戦略^{注1}の範囲内の事業とされます。注1:ここでいう「経営戦略」とは、本ビジョンの4つの基本戦略を指します。
- ✓ 本ビジョンの計画期間は10年とし、定期的にモニタリング(※)・改定を行うこととします。

計画期間

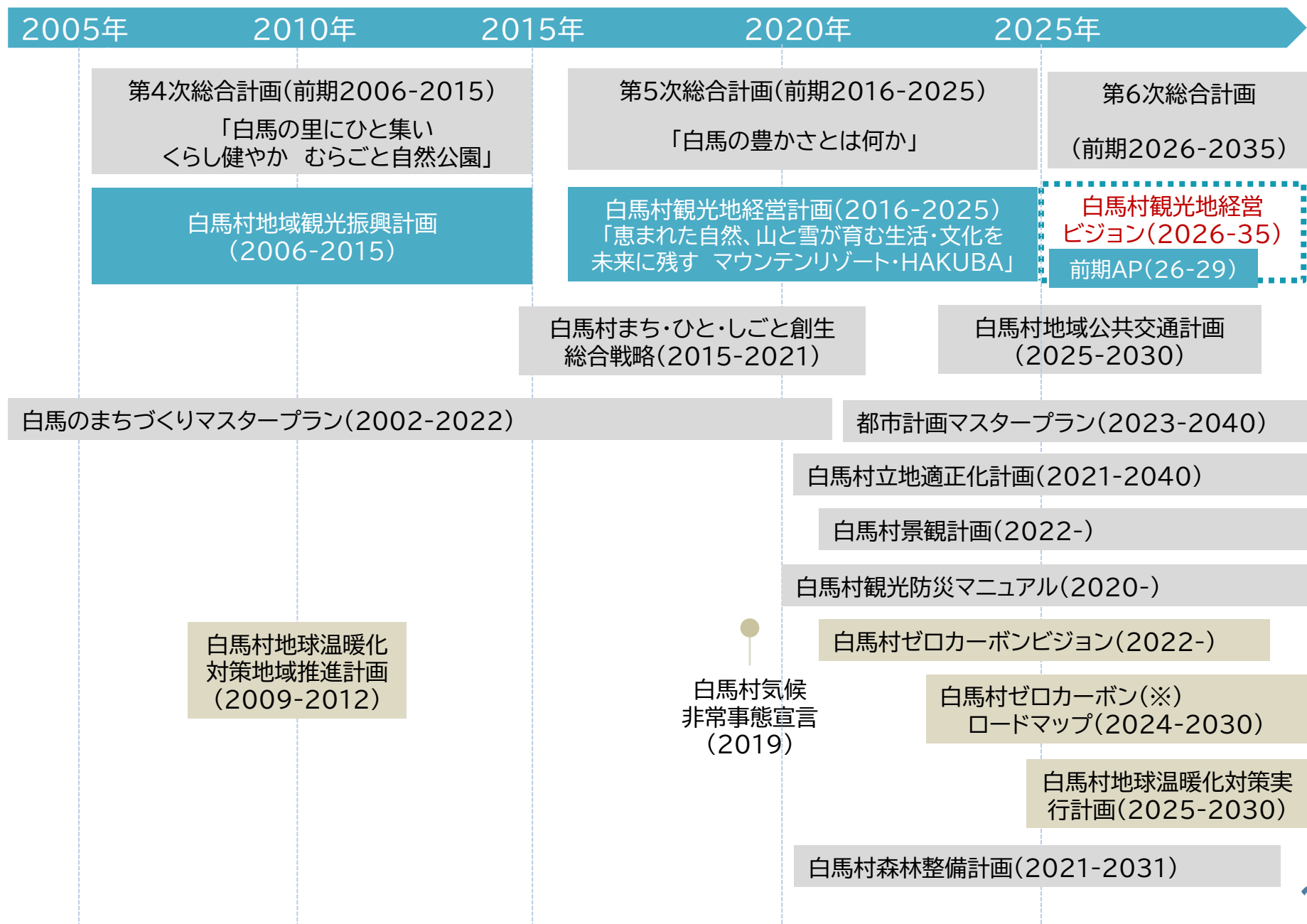


○ 白馬村観光地経営会議の位置づけ

- ✓ 「白馬村観光地経営会議」は経営ビジョンの策定や進捗管理、宿泊税の使途を審議する主体として格上げされます。(「白馬村持続可能な観光地経営に関する条例」に基づく)

(白馬村持続可能な観光地経営に関する条例第9～12条参照)

* 白馬村の関連計画と白馬村観光地経営ビジョンとの関係性



* 白馬村観光地経営ビジョンの目標像と基本戦略

目標像

地域住民が誇る、オールシーズン型マウンテンリゾート・コミュニティ



基本戦略

基本戦略1

住民の暮らしの豊かさにも
つながる観光振興

- 1-1 ストレスフリー(※)な二次交通整備と環境負荷の低い移動手段の促進
- 1-2 白馬村ならではの特徴的な教育の実施
- 1-3 巻き込み型の文化資源の活用と保全
- 1-4 住民向けの情報発信と住民向け優遇策の充実(インナーキャンペーンの実施)
- 1-5 来訪者・住民の双方を守る災害・防犯対策

基本戦略2

白馬村の魅力を損なわない
ための適切な開発

- 2-1 適切な開発
- 2-2 白馬ルール(仮)の策定と運用(事業者・住民・観光客と共に)
- 2-3 科学的な観光地経営の元となる統計整備とモニタリング手法開発

基本戦略3

白馬村における観光産業
の構造改革

- 3-1 多様な季節・エリアの魅力づくりによる閑散期対策の強化
- 3-2 観光産業事業者・従事者の労働環境・居住環境・教育環境の整備
- 3-3 ハード・ソフトの付加価値の向上(既存施設への再投資)
- 3-4 収益性を高めるための仕組みづくりと、利便性・生産性向上を実現するためのDXの推進

基本戦略4

世界に通用する白馬の魅力
=HAKUBAローカル
の磨き上げ

- 4-1 HAKUBAローカルの発信とそれらをじっくり楽しむコンテンツの開発
- 4-2 白馬村の自然環境を後世に引き継ぐための環境対策
- 4-3 多様な来訪者の受け入れ環境整備
- 4-4 ターゲットとの関係構築を意識した戦略的なプロモーション
- 4-5 観光財源の効果的な活用とガバナンス(※)構築
- 4-6 ビジョンを実現するための観光推進体制の強化と観光推進組織の改革

* 白馬村観光地経営ビジョンのキックオフプロジェクト

全施策の中でも特に先駆けて取り組むべきプロジェクトは以下の通りである

望ましい観光・開発の在り方の検討

関連施策: 2-1 適切な開発

白馬村の環境・自然、地域産業、地域社会、来訪者にとって適切な観光・開発の在り方の検討を行う。早急に方向性の検討を行った上で、具体的な施策の実行を目指す。

白馬の観光に関わるコミュニティの構築

関連施策: 2-2 白馬ルール(仮)の策定と運用(事業者・住民・観光客と共に)
4-6 ビジョンを実現するための観光推進体制の強化と観光推進組織の改革

白馬村の観光に関わる主体が多様化してきている中、関係者が責任を持って関与する仕組みを早急に構築する。
具体的には、外部資本企業も観光地経営に関わる仕組みづくり、村内に複数ある既存の観光関連組織の見直し検討等を進める。

村内の主要インフラ・観光関連設備等の現状把握

関連施策: 3-3 ハード・ソフトの付加価値の向上(既存施設への再投資)

村内の主要インフラ(道路、上下水道、登山道等)や観光関連設備の老朽化が進んでいる現状を踏まえ、早急に現状把握・今後のロードマップ整理と資金の検討を行う必要がある。

データ収集・分析体制の強化

関連施策: 2-3 科学的な観光地経営の元となる統計整備とモニタリング手法開発

現状を把握し適切な観光指標を設定するために必要なデータを洗い出した上で、それらを収集・分析・公表するための仕組みを整備する。また、宿泊税の徴収や納税に際して収集すべきデータについては早急に検討を行う。

宿泊施設の基礎データ	施設タイプ、営業日数、部屋数、ベッド数
------------	---------------------

宿泊客データ	人数(価格帯別)、居住地、来訪目的
--------	-------------------

観光財源の効果的な活用とガバナンス構築

関連施策: 4-5 観光財源の効果的な活用とガバナンス構築

4-6 ビジョンを実現するための観光推進体制の強化と観光推進組織の改革

令和8年から導入される宿泊税について、取り急ぎ充当すべき事業を検討する。また、受益者負担の観点からより幅広い主体から徴収できる観光財源のあり方や、既存の宿泊税の税額や定率制への変更、宿泊税では充当できないプロモーション費用を創出するための負担金の検討など、より効果的な観光財源の検討を行う。

* 白馬村観光地経営ビジョン前期アクションプランとは

白馬村観光地経営ビジョン前期アクションプランとは・・・

- 白馬村観光地経営ビジョンの前期期間中（2026～2029年度）に、白馬村で実施すべき取り組み（プロジェクト）、実施主体、実施時期等について示したものです。

※あくまで策定時点の案になりますので、事業の立案・予算化の段階でさらに細かく調整します

※取り組み主体は行政やDMO以外にも、観光関連組織、民間事業者、住民など多岐にわたります

- 本プランで示している取り組みは、宿泊税を活用するものだけでなく、一般財源や入湯税、その他の財源を活用するものも含まれます。

【策定の流れ】

①観光地経営ビジョンの中でキックオフプロジェクトとして挙げたもの

②前期期間で想定される内部環境・外部環境の変化

③前期期間で各団体が実施予定の事業＋宿泊税を活用して実施すべき事業
（事業者向けアンケート結果より）

④宿泊税活用事業審査委員会での委員の皆様からのご意見（2回開催）

第1回（6月9日）

- ① 4年間で想定される変化
- ② 前期の基本方針（案）
- ③ 戦略ごとのプロジェクト（案）

第2回（6月下旬）

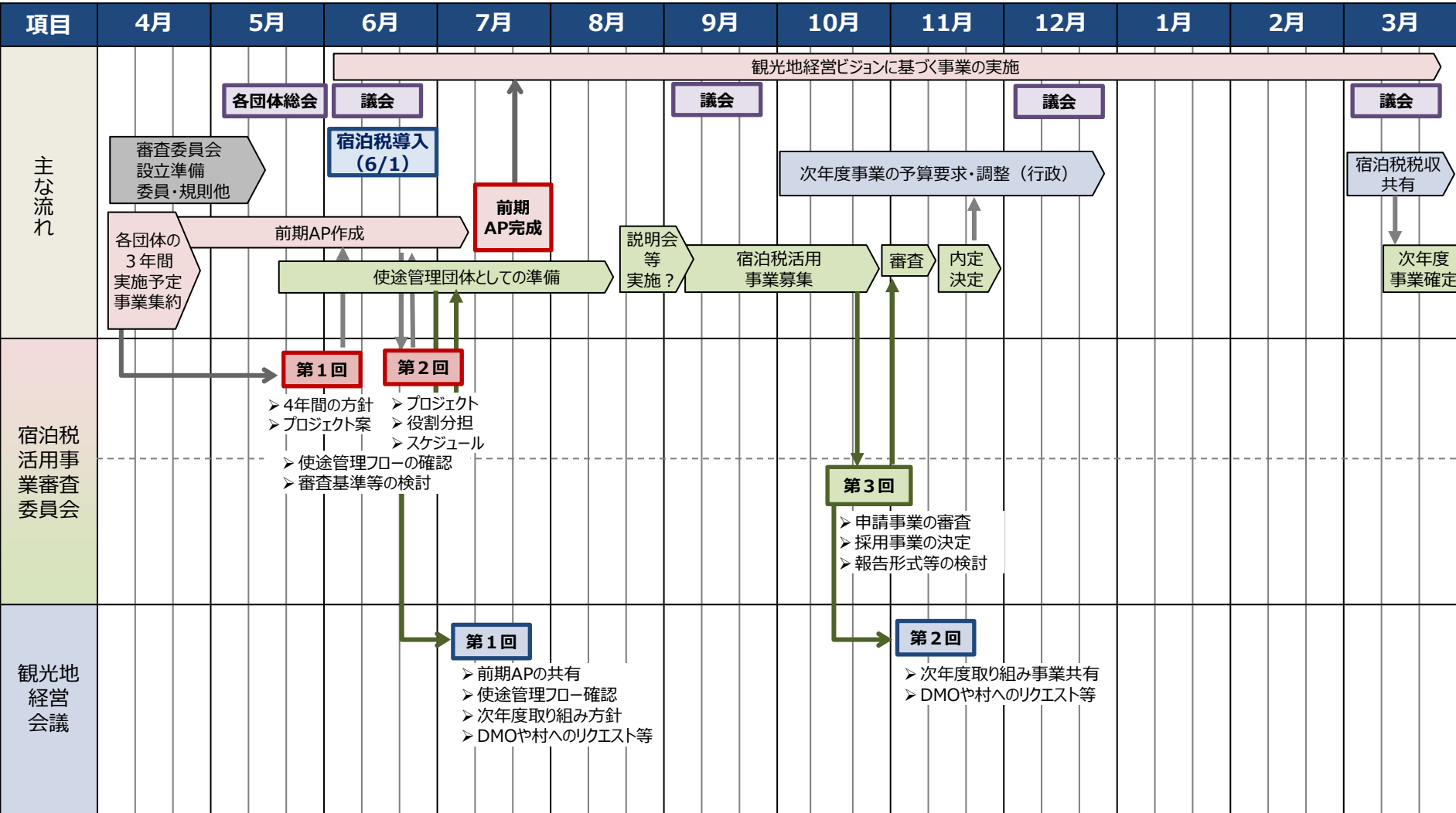
- ① 戦略ごとのプロジェクト
- ② 役割分担
- ③ 実施スケジュール

①～④を勘案して前期アクションプランを策定

＊ 前期アクションプランの策定主体

会議	観光地経営会議	白馬村宿泊税活用事業審査委員会 (前期アクションプラン策定) (使途管理)	
主なメンバー	➤ 有識者（学識） ➤ 各団体代表者	➤ 各団体代表者 ➤ 学識有識者 ➤ 公募委員	
事務局	➤ 観光課	➤ DMO	➤ DMO ※当面は観光課が伴走支援
協議事項	➤ 観光地経営ビジョン策定 ➤ ビジョンの進捗管理 ➤ 宿泊税使途事業（全体）実績の検証、評価	➤ 前期APのプロジェクト ➤ 役割分担 ➤ スケジュール ➤ 推進体制 など	➤ 申請団体の活用目的、事業費等の審議、決定 ➤ 宿泊税活用実施事業の報告確認→観光地経営会議に提出
会議開催時期	➤ 秋頃（予算要求時にあわせて） ➤ 年度初め（前年度事業の評価・検証）	➤ 観光地経営ビジョン策定後、なるべく早く ➤ 6月中に2回程度	➤ 6月下旬（一連のフロー確認のため） ➤ 11月（事業審査） ➤ 4月頃（事業報告の確認） ➤ 課題の確認（観光地経営会議への送付）

＊ 前期アクションプランの策定スケジュール



第1章 はじめに

- ・ 白馬村観光地経営ビジョンの概要
- ・ 前期アクションプランの位置づけ

第2章 前期アクションプランの方向性

- ・ 観光の動向をふまえた前期アクションプランの方向性
- ・ 基本方針

第3章 戦略ならびにプロジェクト

- ・ 基本戦略1 住民の暮らしの豊かさにもつながる観光振興
- ・ 基本戦略2 白馬村の魅力を損なわないための適切な開発
- ・ 基本戦略3 白馬村における観光産業の構造改革
- ・ 基本戦略4 世界に通用する白馬の魅力=HAKUBAローカルの磨き上げ

第4章 アクションプランの推進

- ・ 推進体制
- ・ 実施・管理・評価の考え方



第2章 前期アクションプランの方向性

* 今後4年間にける内部環境・外部環境の変化

	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
【内部環境】 白馬村・周辺エリア	● 宿泊税導入(6月～) ● 「白馬村観光地経営ビジョン」スタート ● 白馬駅前再開発	● 「信州やまなみ国スポ・全障スポ」リハーサル大会 ● 八方尾根スキー場 名木山エリア大規模リニューアル(12月)(新ゴンドラ・センターハウス開業)	● 八方バスターミナルと複合施設整備(2028年度から順次開業) ● 長野オリンピック開催30周年 ● 「信州やまなみ国スポ・全障スポ」本大会開催 ● カッシーア・白馬 開業(バンヤン・グループ)	● バンヤンツリー白馬開業
【外部環境】 長野県・中信・北信周辺	● 長野県150周年 ● 長野県宿泊税導入	● 「信州やまなみ国スポ・全障スポ」リハーサル大会 ● 信州デスティネーションキャンペーン開催(7-9月) ● 善光寺御開帳(4月～6月、77日間、7年に1度) ● 北陸新幹線長野開業30周年	● 諏訪大社御柱祭(7年に1度) ● 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会「信州やまなみ国スポ・全障スポ」本大会 ● 長野オリンピック・パラリンピック開催30周年節目	● 宿泊税第2期税率へ移行(6月～)
外部環境	● 「第5次観光立国推進基本計画」開始 ● 免税制度改正 ● 出国税引き上げ ● パスポート発給手数料値下げ	● 「技能実習制度」から「育成就労制度」への移行 ● 「ふるさと住民登録制度」創設(予定) ● 労基法改正 ● 持続可能でレジリエント(強靱)な観光の国際年	● 化石燃料賦課金(カーボンプライシング)導入 ● 日本版ESTA「JESTA」の導入	● 成田空港年間発着枠拡大(※延期見通し)

* 前期アクションプランの方針(案)

近年の白馬村の動向

- 入込は順調に回復し一般観光旅行の割合が高まる
- 地価が上昇傾向にあり転出、観光開発が進む
- 人手不足と後継者問題
- 冬とそれ以外の季節の人口差
- 気候変動による環境の変化
(夏の気温上昇、降雪量が不安定に、災害増加)

観光地経営ビジョンで掲げた キックオフプロジェクト

- 望ましい観光・開発の在り方の検討
- 白馬の観光に関わるコミュニティの構築
- 村内の主要インフラ・観光関連設備等の現状把握
- データ収集・分析体制の強化
- 観光財源の効果的な活用とガバナンス構築

今後4年間での内部環境・外部環境の変化

内部環境の変化

- 2026年6月より宿泊税を導入

外部環境の変化

- 「第5次観光立国推進基本計画」開始
- 免税制度改正
- 出国税引き上げ
- パスポート発給手数料値下げ
- 「技能実習制度」から「育成就労制度」への移行
- 「ふるさと住民登録制度」創設(予定)
- 労基法改正
- 持続可能でレジリエント(強靱)な観光の国際年
- 化石燃料賦課金(カーボンプライシング)導入
- 成田空港年間発着枠拡大(※延期見通し)

前期期間で各団体が実施予定の事業＋宿泊税を活用して実施すべき事業(提案)→【参考資料2参照】

【実施期間:2026年4月17日～5月18日 対象:白馬村観光局会員施設・団体

方法:Web上でのフォーム経由 回収数:21件 】

- 交通インフラ、二次交通整備
- マナー啓発、ゴミ対策、景観・開発の規制やコントロール
- 文化の保全、公園やトレイル等の整備、グリーンシーズンの対策強化(閑散期対策)、食の魅力づくり 等
- 観光事業者・従事者への支援強化
- DXの活用(交通、情報、統計、バックグラウンド)
- 宿泊税運用の透明性の確保とガバナンスの確立 等

宿泊税使途の基本方針

- 観光客の利便性・満足度向上に資する事業
- 観光客が訪れることで生じる自然環境や住民生活へのマイナスの影響を抑えるための事業
- 徴収・運用の仕組みづくり
- 中長期的な戦略／計画の設定
- 観光リスクマネジメント

* 前期アクションプランの方針(案)

前期アクションプランのポイント(案)

- インバウンド6000万人時代に向けたインフラ整備が進む中で、国内外から様々な旅行者が増えていくことを意識した受入環境整備(ハード・ソフト・マインド)
- 住民生活の質を守り、観光振興とのバランスをどう図るかは最優先事項であり世界的なトレンド(特に繁忙期の対策、住民・事業者とのコミュニケーション強化)
- 気候変動を意識した準備(地域を挙げた環境対策、酷暑・少雪を意識したコンテンツづくり)
- 人手不足が継続課題となる中で地域全体での労働環境改善と生産性向上
- 手遅れになる前に適切な開発誘導と景観を守る仕組みづくり
- 宿泊税の税収を増やす(宿泊者数・宿泊単価・満足度向上)ための取り組み
- 災害時の対応力強化(対来訪者、対メディア等)
- 科学的な観光地経営の基本となる観光統計の整備
- 宿泊税の効果的な活用サイクルと運用ガバナンスの確立
- 白馬村の観光を担う組織の役割分担整理とDMOの組織力強化

※全体的に住民生活の利便性も高まることを意識

※取り組みを縦割りにせず、取り組み同士の連動性と相乗効果を意識

前期アクションプランの方針(案)

住民が誇れる、持続可能な観光地経営の基盤を築く4年間

～ルール、財源、組織、統計、インフラを整え、生活と観光の両立と高付加価値化を図る～



第3章 戦略ならびにプロジェクト

戦略ならびにプロジェクトの一覧(1/2)

観光地経営ビジョン			前期アクションプラン	
基本戦略	施策No.	施策	プロジェクトNo.	プロジェクト(案)
住民の暮らしの豊かさにもつながる観光振興	1-1	ストレスフリーな二次交通整備と環境負荷の低い移動手段の促進	⇒ 1-1-1	既存の取組の成果等を踏まえた二次交通のデザイン
			⇒ 1-1-2	多様な交通手段のわかりやすい情報発信
			⇒ 1-1-3	自転車など環境負荷が低い移動手段の普及
	1-2	白馬村ならではの特徴的な教育の実施	⇒ 1-2-1	事業者や住民との連携による観光教育カリキュラムの構築
	1-3	巻き込み型の文化資源の活用と保全	⇒ 1-3-1	住民や観光客が地域資源の保全・活用に参画できる仕組みづくり
	1-4	住民向けの情報発信と住民向け優遇策の充実(インナーキャンペーンの実施)	⇒ 1-4-1	多様な住民に届くわかりやすい情報発信(インナーキャンペーンの強化)
白馬村の魅力を損なわないための適切な開発			⇒ 1-4-2	事業者と連携した住民向け優待策の充実・発信(例:アルプスPayを活用した住民還元)
	1-5	来訪者・住民の双方を守る災害・防犯対策	⇒ 1-5-1	災害発生時の即応体制の構築(例:白馬村観光防災マニュアルに基づいた訓練実施)
			⇒ 1-5-2	DCP(観光地継続計画)の策定
	2-1	適切な開発	⇒ 2-1-1	白馬村の魅力を損なわないための開発ルール・指導體制の構築
	2-2	白馬ルール(仮)の策定と運用(事業者・住民・観光客と共に)	⇒ 2-2-1	新規参入事業者も含め、オール白馬のコミュニケーション体制の構築
	2-3	科学的な観光地経営の元となる統計整備とモニタリング手法開発	⇒ 2-2-2	白馬村観光事業者向けガイドラインの普及・徹底
			⇒ 2-2-3	白馬村マナー条例の運用
			⇒ 2-2-4	違法民泊の取り締まり強化
			⇒ 2-3-1	観光関連データの取得・分析方法の再整理・実施体制構築

※ 太字:キックオフプロジェクトと連動しているプロジェクト

戦略ならびにプロジェクトの一覧(2/2)

観光地経営ビジョン		
基本戦略	施策No.	施策
白馬村における観光産業の構造改革	3-1	多様な季節・エリアの魅力づくりによる閑散期対策の強化 ⇒
	3-2	観光産業事業者・従事者の労働環境・居住環境・教育環境の整備 ⇒
	3-3	ハード・ソフトの付加価値の向上(既存施設への再投資)
	3-4	収益性を高めるための仕組みづくりと、利便性・生産性向上を実現するためのDXの推進

HAKUBAローカルを世界に通用する白馬の魅力の磨き上げ	4-1	HAKUBAローカルの発信とそれらをじっくり楽しむコンテンツの開発 ⇒
	4-2	白馬村の自然環境を後世に引き継ぐための環境対策 ⇒
	4-3	多様な来訪者の受け入れ環境整備 ⇒
	4-4	ターゲットとの関係構築を意識した戦略的なプロモーション ⇒
	4-5	観光財源の効果的な活用とガバナンス構築 ⇒
	4-6	ビジョンを実現するための観光推進体制の強化と観光推進組織の改革 ⇒

前期アクションプラン	
プロジェクトNo.	プロジェクト(案)
3-1-1	通年型マウンテンリゾートとしての春・夏・秋のコンテンツ造成と滞在スタイルの提案
3-2-1	従業員向け研修プログラムの地域全体での展開
3-2-2	労働環境・居住環境改善・福利厚生充実による観光産業の魅力づくり
3-3-1	村内主要インフラ・観光関連設備等の再投資計画の検討
3-4-1	高付加価値コンテンツの造成とガイドの育成
3-4-2	多様な主体のDX推進とAI活用支援
4-1-1	HAKUBAローカルを活かしたブランディング(戦略的な情報発信とコンテンツ化)
4-2-1	繁忙期におけるゴミ対策と騒音対策
4-2-2	観光事業者の環境対策支援
4-3-1	多様な来訪者の受け入れに係る意識醸成と受入可能施設の情報発信
4-4-1	ターゲットに訴求するコンテンツ・媒体を活用した戦略的な情報発信
4-4-2	CRM(顧客関係管理)等の実施による顧客との関係性構築
4-5-1	宿泊税活用事業審査委員会を中心とした宿泊税運用体制の確立
4-5-2	宿泊税以外の選択肢(負担金等)も含めた財源確保の検討
4-6-1	観光関連組織の役割分担の整理とDMOの機能・組織強化
4-6-2	観光地経営ビジョン・アクションプランの管理体制の構築

1-1 ストレスフリーな二次交通整備と環境負荷の低い移動手段の促進

概要（ビジョンから再掲）

住民・観光客双方にとって快適かつ環境に配慮した移動をDXを活用しつつ実現する。バス路線の再整備や、デマンドタクシーの拡充等といった取組により、利便性と回遊性を高め、交通混雑改善や移動負担軽減を図るほか、CRMと連動した交通パス（シティカード）等の導入等により、他サービスや観光地マネジメントとの連携を試みる。また、EVバイクや自転車移動の促進等、環境負荷の低いモビリティの普及や、観光利用と通勤・通学の統合運用を通じて、地域の脱炭素化にも貢献する。国内周遊の促進、さらには近隣観光地からもストレスなく来村できるようJRをはじめとした交通事業者と連携して改良する。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	スキーイン・アウト地域化実証事業（スノースポーツ利用者優先道路の検討）【民間 宿泊事業者】			○
	前加工場を解体した跡地の有効活用【民間 その他事業者】			
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- スキーイン・アウト地域化実証事業 - 夏季ナイトデマンドタクシー運行 - 白馬駅前の交通渋滞緩和（反対側改札・乗り場整備） - 八方尾根ゴンドラ建設地への道路・駐車場整備 - 八方～エコーランド間の渋滞緩和道路整備 - 除雪等の道路整備による事故防止対策 - オリンピック道路の渋滞緩和と裏道整備 - オリンピック道路の除雪状況改善 - 道路・街灯・観光サインの整備観光インフラ（二次交通）整備 - 冬季除雪体制の見直しと河川敷活用 - 白馬駅前の整備（駐車場・観光案内所） - 冬季道路状況改善と送迎バス運行整理 - 登山口までのバス交通拡充 - 登山口駐車場拡充とDX化（カメラ・予約制） - 二次交通DX化による情報発信強化 - 二次交通・周遊環境整備（循環便の設定） - 自走式ロープウェイ導入による周遊 - 駅前ロータリー地下駐車場の整備			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 「地域の足」「観光の足」確保がますます重要に（高齢者の増加、観光客数増加）
- 化石燃料賦課金（カーボンプライシング）導入
- AIオンデマンド乗合交通拡充（ふれAI号、白馬ナイトデマンドタクシー、デイデマンドタクシー等）
- 白馬村地域公共交通計画（2025～30年度）の推進

【今後の事業予定等】

- 大糸線（南小谷～糸魚川）の「あり方」協議（2026年度～）
- 地域公共交通計画（2025-30）に基づく路線・運行体系の再編（～2030年度）
- 立地適正化計画・都市計画マスタープランに基づく交通結節点整備（～2040年度）
- 八方バスターミナルと複合施設整備（2028年度から順次開業）

コラム：【デジタルマップ（ニセコエリア）】

ニセコエリアでスマートリゾート推進コンソーシアムが整備。デジタルゲレンデマップは、4スキー場のリフト運行やシャトルの路線・次便到着をリアルタイム発信。ニセコデジタルマップは、飲食・温泉・タクシー等の地域情報を集約。



出典：株式会社ニセコリゾート株式会社
<https://www.niseko-ta.jp/news/article/digital-transformation/>

前期APに入れ込むプロジェクト（案）

プロジェクト1-1-1. 既存の取組の成果等を踏まえた二次交通のデザイン

プロジェクト1-1-2. 多様な交通手段のわかりやすい情報発信

プロジェクト1-1-3. 自転車など環境負荷が低い移動手段の普及

1-2 白馬村ならではの特徴的な教育の実施

概要（ビジョンから再掲）

白馬村ならではの特性を活かし、観光の現場と連動した教育の機会を創出する。白馬村の観光の根幹にある自然・文化、村の観光現場や企業を学びのフィールドとした実践的・探究的教育を通して、小学校から白馬高校までの一連の高度な語学教育やグローバル体験学習の機会の創出により、世界で活躍できる人材を輩出する高度な教育プログラムを確立する。

事業者アンケートでの意見		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	若い世代が安全に山と向き合い、学び、楽しむ力を育てるための地域プログラム【民間 宿泊事業者】	○		○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- 若い世代向け山岳安全教育プログラム - 白馬村の特色ある教育のPRと環境整備			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 地域留学・高校魅力化推進(2019年開始、年々規模拡大中)
- 高校で探求学習が必修化(2022年度～)
- 教育環境向上(白馬高校国際観光科、しろうま學舎、白馬インターナショナルスクール 等)
- 若年層の流出によるさらなる高齢化加速、後継者不足による地元資本事業者減少の懸念

コラム：【長崎市 観光教育人材育成事業】

長崎市は、将来の観光産業を担う人材の育成と、地域全体としのおもてなし意識の醸成を目的に、市内小中学校向けに「観光教育人材育成事業」を実施している。専門家により行われる出前授業では、生徒は単に長崎の名所を知るだけでなく、多様な観光客のニーズ(客層)を想定した観光プランを考案し、それを寸劇形式で発表するといった活動を通じて、地域の魅力を見つけ出す力や、発信・提案する実践的なスキルを磨く。この事業は長崎市と(一社)長崎国際観光コンベンション協会が連携して実施しており、宿泊税が財源として活用されている。

<https://www.city.nagasaki.lg.jp/page/5644.html> / <https://www.at-nagasaki.jp/dmo/news/1095>



前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト1-2-1. 事業者や住民との連携による観光教育カリキュラムの構築

1-3 巻き込み型の文化資源の活用と保全

概要（ビジョンから再掲）

白馬村の文化・生活資源を地域住民と来訪者が共に保全・活用する仕組みを構築する。東山エリアや塩の道等でのガイド付きツアーや集落維持支援サポーター制度の構築等、観光客が地域の文化・生活・人に直接関与し背景を知ることができるような取組を通じて、観光客を関係人口として巻き込み、共に資源の活用・保全を推進する。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	塩の道・サステナブル広域周遊観光推進事業【DMO】	○	○	○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	・ 天狗の道トレイル再整備			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 担い手不足・高齢化により集落・棚田・古道等の維持管理が今後さらに困難になることが予想される。（東山エリアの里山・集落文化、祭り、塩の道沿いの歴史資源 等）

コラム：【青鬼棚田サポーター】

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている青鬼地区は、少ない住民で広大な棚田の維持管理を行っていくのが課題となっている。村内外の青鬼ファンが堰ざらい、田植え、稲刈りといった人手が必要な場面でサポートできるネットワークづくりが行われている。



コラム：【熊野古道の「道普請」と語り部】

世界遺産・熊野古道では、地元の高齢化で参詣道を守る担い手が減る一方、巡礼者は増加。和歌山県は2009年から「道普請」をプログラム化し、企業・学校・個人のボランティアによる道の補修に全国から約3万4700人が関わってきた。あわせて語り部が史跡や伝承を案内。



出典：<https://prtimes.jp/story/detail/wxGOL6uevix> <https://www.hongu.jp/kumanokodo/kataribe/>

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト1-3-1. 住民や観光客が地域資源の保全・活用に参画できる仕組みづくり

1-4 住民向けの情報発信と住民向け優遇策の充実(インナーキャンペーンの実施)

概要 (ビジョンから再掲)

白馬村が観光地であることにより得られる恩恵を住民も享受し、住民が観光を通じて地域の魅力に誇りを持ち、主体的に関わることができるような環境・仕組みを整備する。

観光による効果・観光財源の使途等について住民にもわかりやすく発信すると共に、レジデンスカード(在留カード)の導入、住民向けの優待プログラム等を設けて住民の観光に対する理解促進を図る。

事業者アンケートでの意見

宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】

- ・ 村民・地域法人向けの宿泊税活用

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 外国人移住・二地域居住で住民構成が多様化(情報発信の多言語・多様な層への対応)
- ・ 観光客増による住民生活との調和・便益還元の必要性増

コラム:【住民向け自転車シェアリングサービス「Bicing」(バルセロナ)】

バルセロナ住民のみが使える自転車シェアリングサービス。バルセロナ市が住民の日常的な移動手段の改善と環境負荷の低減を目指して開始。スマートフォンアプリ「SMOU」を通じて、空き状況の確認や自転車の予約ができる。年間利用料が安価なため、通勤に使う住民も多い。



コラム:【倶知安ID+(倶知安町)】

住民票が倶知安町にあり、マイナンバーカードを保有する方が町民証明、町民割引を利用できる共通IDサービス。
例えばスーパーでの買い物、アクティビティやスキーリフト券の購入等を受けることができ、国際リゾート観光地に暮らす住民の暮らしの保全と満足度向上を目指す。



利用可能なサービス



ひらふ・HANAZONO 共通
リフト券



Kutchan ID+でつながる
対応サービス、続々登場予定

<https://kutchanid.machi-wai.jp/>

コラム:【暮らしと観光をつなぐポータルサイト LINK! LINK! LINK!(京都市)】

京都市民の暮らしと観光をつなぐポータルサイトを公開し、観光が京都にもたらす意義や効果、課題とその対策をわかりやすく紹介している他、市民が優遇を受けられる店舗や施設の情報などを発信している。



暮らしと
観光をつなぐ
ポータルサイト

<https://link.kyoto.travel/>

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト1-4-1. 多様な住民に届くわかりやすい情報発信(インナーキャンペーンの強化)

プロジェクト1-4-2. 事業者と連携した住民向け優待策の充実・発信(例:アルプスPayを活用した住民還元)

1-5 来訪者・住民の双方を守る災害・防犯対策

概要（ビジョンから再掲）

新型コロナウイルス、神城断層地震など、観光は常に様々な影響を受けるものであり、こうした災害はいつでも起きるという前提で柔軟に対応できる体制を構築しておく必要がある。常に国内外から多くの観光客が訪れる白馬村では、住民のみならず来訪者も意識し、両者を守るために最善のアクションを起こせるよう防災訓練の実施や、緊急時の連絡・連携体制を構築する。

また、地域としての観光地継続計画(DCP)の策定と共に、個別事業者の簡易BCP(事業継続計画)の策定支援・見直し等を進める。また、不特定多数の観光客が出入りすることにより治安が悪化しないよう、警察とも連携した防犯対策等を日頃から実施する。

事業者アンケートでの意見

宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】

- 観光客通行路の街灯整備
- 防犯カメラ設置
- 夏季ナイトデマンドタクシー運行(飲酒運転防止、熊被害防止)
- 迷惑防止条例・マナー違反行為の周知徹底
- 大雪溪ルート監視カメラ設置
- 登山マナー向上×観光リスクマネジメント

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 自然災害の激甚化・頻発化
- 来訪者・住民の多様化
- 熊等の野生動物の町中出没増加

コラム：【愛媛県・道後温泉 災害に強い温泉地づくり】

南海トラフ地震を見据え、道後温泉では旅館協同組合が地域ぐるみで防災に取り組んできた。各旅館が耐震化(施設の建て替え等)を進め、2019年までに対応の目途をつけるとともに、組合として従業員の「防災士」資格取得を奨励。さらにコロナ禍を契機に、組合が連携して事業継続計画(BCP)の策定に取り組み、危機管理を本来業務として位置づけた。個々の施設の耐震・防災人材・組合連携のBCPを束ね、「災害に強い温泉地」を面で築いている。

出典:

<https://www.dogo.or.jp/event/119%E6%9C%88%E6%97%A5%E7%BC%88%E7%81%AB%E7%BC%89%E3%80%8C%E7%AC%AC10%E5%9B%9E%E9%81%93%E5%BE%8C%E6%B8%A9%E6%B3%89%E5%91%A8%E8%BE%BA%E5%9C%B0%E5%8C%BA%E5%90%88%E5%90%8C%E9%98%B2%E7%81%BD%E8%A8%93/>



前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト1-5-1. 災害発生時の即応体制の構築(例:白馬村観光防災マニュアルに基づいた訓練実施)

プロジェクト1-5-2. DCP(観光地継続計画)の策定

2-1 適切な開発

概要（ビジョンから再掲）

白馬村の自然環境や生活環境を守りながら、暮らしと開発の両立を図る。まずは暮らしと両立ができる開発の定義やベネフィットアグリーメント(地域にメリットのある開発条件の提示)等を検討する。

具体的な開発にあたっては、「白馬村景観条例」及び「白馬村開発行為の調整等に関する条例」等に基づいた適切な指導、白馬村開発調整条例で定める植生調査・住民説明会の実施、景観条例・景観育成住民協定で定める各基準等の徹底、農地・森林転用のモニタリングとルールの検討、地域コミュニティへの参画要請などが考えられる。

また、宿泊税等の一部を活用し、景観・環境保全基金を創設するなど、地域資源の循環的な活用を促す。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	前加工場を解体した跡地の有効活用【民間 その他事業者】			
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- 八方尾根ゴンドラ建設地への道路・駐車場整備 - オリンピック道路の渋滞緩和裏道整備 - 景観向上(エリア景観保全) - 幹線道路脈への長期植樹計画		- リゾート地の下水設備整備 - 村内景観づくり(広告看板・インフラ色彩整備) - 景観ルール整備(開発規定強化) - 前加工場跡地の有効活用	

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 域外資本宿泊施設の進出・ラグジュアリー宿泊施設の進出
- 白馬村景観計画(2022.3)、開発行為の調整等に関する条例(2022)等に基づいた開発の推進
- 地価高騰・不動産投資の活発化、農地・森林の転用圧力継続
- 開発指導基準の改正(2026年4月告示・9月施行。従業員の住居・送迎・寮の計画記載、開発道路の堆雪地確保、緑地・公園の道路沿い配置を義務化)

★【キックオフプロジェクト】:望ましい観光・開発の在り方の検討

- 白馬村の環境・自然、地域産業、地域社会、来訪者にとって適切な観光・開発の在り方の検討を行う。早急に方向性の検討を行った上で、具体的な施策の実行を目指す。

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

★プロジェクト2-1-1. 白馬村の魅力を損なわないための開発ルール・指導体制の構築

2-2 白馬ルール(仮)の策定と運用(事業者・住民・観光客と共に)

概要 (ビジョンから再掲)

白馬村を後世に残していくために各主体が共に守るべきルールを明確化・共有し、地域全体で持続可能な観光地経営を実現する。マナーや環境対策、廃棄物管理などに関する行動基準を策定し、住民・観光客にもわかりやすく自然に伝わるような形で共有する。また、ルールに則った取組を行う観光事業者を評価・認証する制度、そのような事業者が提供する体験や商品を奨励するプラットフォーム等(※)を導入し、持続的な事業運営を促す。また、白馬村で観光産業を営む場合は、顔の見える関係性の構築やタイムリーな施策や情報提供を行うため、区や商工会、DMOといった組織への加入を促す。

事業者アンケートでの意見

	自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業			○
温泉文化・入浴マナー啓発事業、白馬温泉ブランドの発信【協議会】			
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- エコーランド・八方商店街への冬季ゴミ箱設置 - 河川敷ごみ放置防止看板・監視カメラ設置 - 迷惑防止条例・マナー違反行為の周知徹底 - 健全なルール作り - 登山マナー向上×観光リスクマネジメント		

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 来訪者・住民の多様化
- 白馬村マナー条例(2015年制定 → 2025年12月改正・施行(罰則新設) → 2026年7月1日罰金適用開始)

★【キックオフプロジェクト】:白馬の観光に関わるコミュニティの構築

- 白馬村の観光に関わる主体が多様化してきている中、関係者が責任を持って関与する仕組みを早急に構築する。
- 具体的には、外部資本企業も観光地経営に関わる仕組みづくり、村内に複数ある既存の観光関連組織の見直し検討等を進める。

コラム:【Enjoy & Respect Niseko】

世界中から訪れる来訪者と季節労働者に向けて展開するマナー啓発キャンペーン。「地元で愛されるゲストになろう」を合言葉に、日本の生活習慣や社会規範、近隣・共有空間・自然環境への敬意を分かりやすく伝える。専用サイト・SNSで多言語発信し、罰則だけに頼らず来訪者の行動変容を促している。



出典:
<https://enjoyrespectniseko.com/ja/>

コラム:【京都観光モラル】

京都市と京都市観光協会(DMO KYOTO)が2020年に策定した、持続可能な観光のための行動基準で、観光事業者・従事者、観光客、市民の三者がそれぞれの立場で大切にすべき行動をまとめたもの。推進宣言事業者制度や、観光客向けの宣言キャンペーンを通じて浸透を図っている。

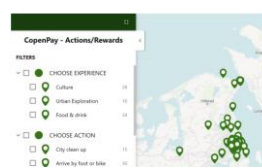


京都が京都であり続けるために
皆様と大切にしていきたいこと

出典:
<https://www.moral.kyokank.or.jp/>

コラム:【コペンハーゲン Copen Pay】

自転車を使う、街の維持管理に協力する、都市型庭園で活動する、電車でコペンハーゲンに行く、長期滞在するといった行動をとった観光客に、無料のランチ、ボートツアー、自転車レンタル、美術館の割引などの特典を提供



出典:
<https://www.visitcopenhagen.com/copenpay>

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

★プロジェクト2-2-1. 多様な主体がルールを守り、責任を持って白馬に関与するという意識醸成

プロジェクト2-2-2. 白馬村観光事業者向けガイドラインの普及・徹底

プロジェクト2-2-3. 白馬村マナー条例の運用

2-3 科学的な観光地経営の元となる統計整備とモニタリング手法開発

概要（ビジョンから再掲）

観光政策の効果や地域への影響を定量的・定期的に把握し、データに基づく観光地経営を推進する。まずは白馬村の観光の実態を改めて正しく把握するため、最新のデジタル技術等を効果的に活用しながら観光地経営ビジョンの指標と連動したデータのモニタリング手法の開発等を行う。また、実態に即した精度の高いデータとするためにも、より多くの村内事業者の協力を得ることが重要となる。

事業者アンケートでの意見		自主 財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	観光データ基盤整備・可視化事業【DMO】		○	○

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

- 【外部環境・内部環境の変化】
- 観光地経営ビジョンの指標(KGI/KPI)と連動したモニタリングの必要性

- ★【キックオフプロジェクト】：データ収集・分析体制の強化
- 現状を把握し適切な観光指標を設定するために必要なデータを洗い出した上で、それらを収集・分析・公表するための仕組みを整備する。
 - また、宿泊税の徴収や納税に際して収集すべきデータについては早急に検討を行う。

宿泊施設の基礎データ	施設タイプ、営業日数、部屋数、ベッド数
宿泊客データ	人数(価格帯別)、居住地、来訪目的

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

- ★プロジェクト2-3-1. 観光関連データの取得・分析方法の再整理・実施体制構築

3-1 多様な季節・エリアの魅力づくりによる閑散期対策の強化

概要（ビジョンから再掲）

通年での観光需要を安定させるため、閑散期の入込客数を冬季に近づけていく。その方策として、特に現在偏りが見られる季節とエリアの分散化、来訪者タイプの分散化に向けて、以下の通りの施策が考えられる。閑散期である春や秋は一般的にインバウンドからの人気が高く、過ごしやすく美しい季節でもあることから、白馬村での過ごし方を積極的に提案・発信し、グリーンシーズンの白馬のイメージ形成を図る。また、エリアの分散化については、エリア特性を活かし、来訪者特性や受け入れ体制を鑑みながら白馬村内の各所に分散させることを目指す。特に来訪者の受け入れに慣れていないエリアもあることから、エリアにとってプラスになるような仕組みを検討しつつ、適切なターゲティングや受け入れ体制を明記したエリア別ビジョンの作成等を進める。さらに、従来のスキー客や登山客のみではなく、例えばトレイルランやマウンテンバイクなどアクティビティ関連の大会誘致等を行うことで、山岳スポーツの聖地としてのポジションを確立する。その他にも、近年進めているワーケーションやノマドワーカーの誘致等、様々な来訪目的を意識した受け入れを行っていく。これらの施策の推進にあたっては周辺市町村とも積極的に連携を進める。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	天狗の道トレイル再整備【民間 宿泊事業者】	○		○
	ランディングの確保(パラグライダー)【民間 アクティビティ関連事業者】	○	○	
	白馬村ブランディング事業【DMO】	○	○	○
	塩の道文化の継承・商品化【DMO】	○	○	○
	登山道整備【民間 アクティビティ関連事業者】	○※	○	○
	雁股池ルート整備【民間 アクティビティ関連事業者】		○	○
	Hakuba Valleyブランド・情報発信強化事業【DMO】	○	○	○
	塩の道・サステナブル広域周遊観光推進事業【DMO】	○	○	○
	糸魚川ー松本(北塩ルート)の整備【協議会】	○	○	○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	・ 天狗の道トレイル再整備 ・ 通年誘客イベントの開催(夏季集客対策) ※ 登山者からの協力金			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 気候変動による積雪減→観光が冬季に依存することのリスクが増加
- ・ 山岳スポーツ(トレラン・MTB)の世界的人気
- ・ 一部エリアにおける更なる人口減少・地域文化の担い手等の減少

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト3-1-1. 通年型マウンテンリゾートとしての春・夏・秋のコンテンツ造成と滞在スタイルの提案

3-2 観光産業事業者・従事者の労働環境・居住環境・教育環境の整備

概要（ビジョンから再掲）

観光関連事業の持続的成長を支えるため、事業者の経営基盤強化と従業員の生活環境整備を一体的に進める。具体的には、事業者・従事者の住宅確保に向けた取組、子供の就学支援、相談窓口の設置、DX推進や連携による生産性向上の支援等といった労働・居住環境の改善支援を行う。また、新規参入事業者・従事者に対する白馬村の文化等の教育研修機会の提供等により、経営者・従業員に白馬村に関する理解を深めてもらうための取組や会社を超えたネットワークを構築する支援も行う。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	拠点に若い世代が安全に山と向き合い、学び、楽しむ力を育てるための地域プログラム【民間 宿泊事業者】	○		○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- 若い世代向け山岳安全教育プログラム - 従業員向け居住環境の整備 - 小規模宿・民宿文化継承支援 - 宿泊産業人材確保・育成事業 - 多文化共生の生活環境整備			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 人手不足、従業員住宅の家賃向上、民宿等の後継者不足・高齢化等のさらなる深刻化
- 「技能実習制度」から「育成就労制度」への移行
- 労基法改正
- 従業員の国籍の多様化
- 開発指導基準の改正（2026年4月告示・9月施行。従業員の住居・送迎・寮の計画記載、開発道路の堆雪地確保、緑地・公園の道路沿い配置を義務化）

コラム：【熊本県黒川温泉 黒川塾】

旅館の仕事にとどまらない学びの機会として、宿の将来を担うリーダーに向けて旅館組合が開校している塾となる。地域文化や資源を題材とした講義や、自らのキャリアを考える講義を設け、地域を背負って立つ人材の育成を目指している。

出典：<https://www.kurokawaonsen.or.jp/recruit/blog/kurokawajuku/>



前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト3-2-1. 従業員向け研修プログラムの地域全体での展開

プロジェクト3-2-2. 労働環境・居住環境改善・福利厚生充実による観光産業の魅力づくり

3-3 ハード・ソフトの付加価値の向上(既存施設への再投資)

概要（ビジョンから再掲）

観光の質的向上を図るため、既存施設・資産の再投資と有効活用を進める。具体的には、玄関口としての白馬駅の利便性向上、老朽化の激しいスキー場施設への再投資、登山道の継続的な整備、古民家等の保存・活用、廃屋撤去の促進、農地と農村景観の保全等に取り組む。またそれらに関わる教育等を通じて、資源を次世代に引き継ぐための人材を育成する。特にスキー場施設への再投資に関しては、現状把握から早急に取り組み長期的な視点でマネジメントを行う。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	サウナ・露天風呂【民間 宿泊事業者】	○		
	子ども向けの遊び場【民間 宿泊事業者】	○		
	省エネのため、建物のインソレーション【民間 宿泊事業者】	○	○	
	登山道整備【民間 アクティビティ関連事業者】	○	○	○
	雁股池ルート整備【民間 アクティビティ関連事業者】		○	○
	白馬ウェルネス温泉構想【協議会】			○
	天狗の道トレイル再整備【民間 宿泊事業者】	○		○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- 白馬駅前の交通渋滞緩和 - 北部グラウンド人工芝スポーツ場整備 - 松川北岸公園のトイレ設置とキャンプ場貸与 - 道路・街灯・観光サインの整備 - 道の駅の拡張 - 白馬駅前の整備(駐車場・観光案内所) - 村内観光スポットの整備(白馬大橋・大出公園他) - 大雪溪ルート監視カメラ設置 - 白馬駅前ロータリーへの木造大屋根構築			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ インフラ、観光関連公共施設、スキー場施設・索道等、各種設備・施設の老朽化

★【キックオフプロジェクト】: 村内の主要インフラ・観光関連設備等の現状把握

- ・ 村内の主要インフラ(道路、上下水道、登山道等)や観光関連設備の老朽化が進んでいる現状を踏まえ、早急に現状把握・今後のロードマップ整理と資金の検討を行う必要がある。

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

★プロジェクト3-3-1. 村内主要インフラ・観光関連設備等の再投資計画の検討

3-4 収益性を高めるための仕組みづくりと、利便性・生産性向上を実現するためのDXの推進

概要（ビジョンから再掲）

観光産業全体の収益性を高めるため、需要の分散化に加え、付加価値の高いオプションや商品の開発等による消費単価の向上、各事業者の経営力を高めるためのタイムリーなデータ(来訪者行動や宿泊需要の予測)提供や支援、DXの推進等による経費削減、自社サイトやDMOを通じた直販強化等による手数料削減等を推進する。

また、地域の持続可能な成長を実現するため、地域全体での観光DX推進により来訪者の利便性向上を図りつつ、業務効率化によって創出された人的リソースによって、対面での交流機会創出により旅行者の満足度と愛着を高める。さらに、農業・飲食業などとの連携や観光関連サービス業の活性化、住宅政策等により従事者が村内に居住できる環境を整える等、域内の経済構造を分解しつつ、経済効果を高める仕組みづくりを推進する。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	観光データ基盤整備・可視化事業【DMO】		○	○
	泉質と食事を組み合わせた「白馬温泉食」構想【協議会】			
	サウナ・露天風呂【民間 宿泊事業者】	○		
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	・ 二次交通DX化による情報発信強化 ・ 小規模宿・民宿文化継承支援 ・ 高地野菜・有機農業ブランド化と地産地消推進			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 「量から質へ」、高付加価値化への着目の継続
- ・ 観光DXの普及、AIの高度化

コラム：【ryugon 多様な体験アクティビティの提供】

新潟県魚沼市の古民家ホテルryugonは、宿泊に加え、地域の自然・農・食・暮らしを用いた多様な体験コンテンツを提供している。地域の他事業者・施設や住民と連動したプログラムの提供が特徴。ガイド付きのまちあるき・山菜・きのこ狩り・トレッキング、屋内での地域食料理体験等。



出典：<https://ryugon.co.jp/activities/>

コラム：【はこぼうマップ 交通情報+災害情報】

平時はバスロケーションシステム等を活用した交通情報を、災害等の発生時は避難所の開設状況等の防災情報を閲覧可能なwebサイト。各関連主体の提供する情報を集約して1つのプラットフォーム上にて発信している。



出典：<https://www.hakone.or.jp/7420>

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト3-4-1. 高付加価値コンテンツの造成とガイドの育成

プロジェクト3-4-2. 多様な主体のDX推進とAI活用支援

4-1 HAKUBAローカルの発信とそれらをじっくり楽しむコンテンツの開発

概要（ビジョンから再掲）

世界水準を意識する一方で、白馬固有の価値や大切に守っていききたい資源や価値＝HAKUBAローカル(例: 民宿発祥の地・登山文化発祥の地であること、複雑な地質構造から全く異なる5つの泉質を有するといった特徴の他、白馬村の自然・歴史・文化・暮らし、食、人など)を明確化・差別化し、それらをしっかりと保全しながら、多くの方に知っていただくためのプロモーションやそれらを実感できるコンテンツづくりを行う。また、現代の働き方やライフスタイルに合った長期滞在プログラムやワーケーション受け入れの環境整備も引き続き行う。

事業者アンケートでの意見

		自主 財源	補助金	宿泊税
3年間で実施 予定の事業	天狗の道トレイル再整備【民間 宿泊事業者】	○		○
	サウナ・露天風呂【民間 宿泊事業者】	○		
	塩の道文化の継承・商品化【DMO】	○	○	○
	登山道整備【民間 アクティビティ関連事業者】	○	○	○
	雁股池ルート整備【民間 アクティビティ関連事業者】		○	○
	Hakuba Valleyブランド・情報発信強化事業【DMO】	○	○	○
	塩の道・サステナブル広域周遊観光推進事業【DMO】	○	○	○
	糸魚川―松本(北塩ルート)の整備【協議会】	○	○	○
	温泉文化・入浴マナー啓発事業【協議会】			○
	白馬ウェルネス温泉構想【協議会】			○
	泉質と食事を組み合わせた「白馬温泉食」構想【協議会】			
宿泊税を活用 して実施すべ き事業【提案】	- 天狗の道トレイル再整備 - 村内景観づくり(広告看板・インフラ色彩整備) - 塩の道・道祖神・多雪文化サイン整備事業			- 小規模宿・民宿文化継承支援 - 温泉資源を活用したウェルネスプログラム

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 地域文化の担い手等の減少
- ・ 地域資源の管理の必要性増加

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト4-1-1. HAKUBAローカルを活かしたブランディング(戦略的な情報発信とコンテンツ化)

4-2 白馬村の自然環境を後世に引き継ぐための環境対策

概要（ビジョンから再掲）

ゼロカーボンビジョンの実現に向け、観光と環境保全を両立させるための具体的な施策を進める。省エネルギーの推進、エネルギー管理と自然エネルギーへの転換、CO₂排出量の削減、廃棄物削減など、観光活動全体での環境負荷低減に取り組む。その際、基本戦略2-2白馬ルール(仮)の策定と運用などを通して、環境対策にとどまらないエシカルなマインドの醸成にも取り組む。また、観光事業者によるサーキュラーエコノミー(※)(循環型経済)の実践などを通じて、環境を未来へ継承する地域モデルを構築する。

事業者アンケートでの意見		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	スキーイン・アウト地域化実証事業(スノースポーツ利用者優先道路の検討)【民間 宿泊事業者】			○
	省エネのため、建物のインソレション【民間 宿泊事業者】	○	○	
	塩の道・サステナブル広域周遊観光推進事業【DMO】	○	○	○
	天狗の道トレイルの再整備「五竜とおみトレッキングコース」として親しまれた尾根道の一部を再生する【民間 宿泊事業者】	○		○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	- スキーイン・アウト地域化実証事業 - 河川敷ごみ放置防止看板・監視カメラ設置 - 公共ゴミ回収・清掃サービス費用負担 - 村内クリーン作戦 - 環境保全活動 - 景観向上(エリア景観保全) - ゴミ・自然環境保護 - 幹線道路脈への長期植樹計画 - リゾート地の下水設備整備 - 親海湿原・姫川源流等の自然環境保全活動 - 再エネ導入と既存住宅の木質化推進			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- 国の2050年カーボンニュートラルの目標
- 気候変動の影響による少雪化
- 化石燃料賦課金(カーボンプライシング)導入

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

プロジェクト4-2-1. 繁忙期におけるゴミ対策と騒音対策

プロジェクト4-2-2. 観光事業者の環境対策支援

<https://www.vill.hakuba.lg.jp/material/files/group/2/20240830itibushuusei-roudmappu-kyouhyou.pdf>

4-3 多様な来訪者の受け入れ環境整備

概要（ビジョンから再掲）

訪れる人々の多様な文化的背景や価値観に対応した受入環境を整備する。アクセシブルツーリズム(様々な障害を持つ人が観光にアクセスできる環境を提供すること)の推進、言語・食(ヴィーガン、アレルギー対応等)・LGBTQ・宗教などへの理解と可能な対応、わかりやすい情報発信等に努める。また、危機管理体制の強化に取り組む。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	海外向けHP作成・集客【民間 アクティビティ関連事業者】	○		
	温泉文化・入浴マナー啓発事業【協議会】			○
宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】	・ 観光案内所のアップデート(多言語対応・拠点増設)			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 来訪者・従業員等の多国籍化
- ・ 多様な文化背景を持つ来訪者の増加

コラム:【「インバウンド対応力向上ガイドライン ~海外のお客様からも地元からも選ばれるために~」
京都市内で観光客を接遇する店舗や施設を対象に、京都を訪れる外国人旅行者の満足度を高めつつ、地元の方々からも歓迎される、持続可能な経営を実現していくために、現場での対応力を向上するための改善行動を整理。

<https://www.kyokanko.or.jp/news/20250312/>



コラム:【飛騨高山のヴィーガン弁当プロジェクト】

飛騨高山では、多様な宗教・文化的背景を持つ旅行者が訪れることを踏まえ、ヴィーガン食品を使用した弁当を開発・販売し、食の多様性と文化への理解に取り組み始めている。



https://www.hidatakayama.or.jp/special/detail_454.html

前期APに入れ込むプロジェクト例(案)

プロジェクト4-3-1. 多様な来訪者の受け入れに係る意識醸成と受入可能施設の情報発信

4-4 ターゲットとの関係構築を意識した戦略的なプロモーション

概要（ビジョンから再掲）

来訪者数の増加を目的とする従来型の集客から脱却し、来訪者の質を重視した集客と来訪者との関係性構築の仕組みづくりを重視する。マーケティング・プロモーションにおいては従来以上にターゲットを意識し、データの把握と共にCRM(顧客関係管理)等も実施する。白馬村のコミュニティ、環境を大事にいただける意識の高い層を重視し、それらの層に届く戦略的な情報発信・プロモーションを推進する。

事業者アンケートでの意見

		自主財源	補助金	宿泊税
3年間で実施予定の事業	海外向けHP作成・集客【民間 アクティビティ関連事業者】	○		
	白馬村ブランディング事業【DMO】	○	○	○
	Hakuba Valleyブランド・情報発信強化事業【DMO】	○	○	○

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ CRMツール等の普及拡大

コラム:【フランス・リヨンの利便性の向上と顧客情報の管理】

フランスのリヨン観光局では、観光局が収集しているデータと、民間の観光関連事業者が持つデータを収集・蓄積するCRMツール

「ONLYLYON Experience」を2019年に構築し、シティカード利用データ、宿泊状況やイベント関連データ、交通データ等を収集・分析。データはマーケティング活動に活用し、快適な滞在につながる取組を行い再来訪を促す。



<https://shop.visiterlyon.com/lyon-city-card>

コラム:【富山県 DMCとの連携】

地域の資源を熟知し、その特性を活かした体験商品を開発するネットワークを豊富に持つ「水と匠」(DMO)と、インバウンドを専門とした旅行会社である「wondertrunk」は業務提携を締結。海外富裕層にむけたコンテンツ販売や海外からの予約対応をwondertrunkが、コンテンツの商品販売後の運営・地域内での旅行・宿泊手配を水と匠が協働しつつ担う。



<https://www.jp.wondertrunk.co/blog/oyama-mizutotakumi>

前期APに入れ込むプロジェクト例(案)

プロジェクト4-4-1. ターゲットに訴求するコンテンツ・媒体を活用した戦略的な情報発信

プロジェクト4-4-2. CRM(顧客関係管理)等の実施による顧客との関係性構築

4-5 観光財源の効果的な活用とガバナンス構築

概要（ビジョンから再掲）

観光財源を効果的に活用する仕組みを構築した上で、持続可能な観光運営体制を整える。また観光地経営会議の機能を強化し、観光財源の使途を検討する他、毎年の成果や課題を定量的・定性的に把握し、取り組みの検証を行うこととする。

事業者アンケートでの意見

宿泊税を活用して実施すべき事業【提案】

- ・ 宿泊税活用のための事務局機能強化
- ・ 村民・地域法人向けの宿泊税活用

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 2026年6月宿泊税導入
- ・ 宿泊税導入地域の拡大、宿泊税の形態の多様化

★【キックオフプロジェクト】：観光財源の効果的な活用とガバナンス構築

- ・ 令和8年から導入される宿泊税について、取り急ぎ充当すべき事業を検討する。また、受益者負担の観点からより幅広い主体から徴収できる観光財源のあり方や、既存の宿泊税の税額や定率制への変更、宿泊税では充当できないプロモーション費用を創出するための負担金の検討など、より効果的な観光財源の検討を行う。

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

★プロジェクト4-5-1. 観光局・宿泊税使途計画審議委員会を中心とした宿泊税運用体制の確立

★プロジェクト4-5-2. 宿泊税以外の選択肢(負担金等)も含めた財源確保に向けた幅広い検討

4-6 ビジョンを実現するための観光推進体制の強化と観光推進組織の改革

概要（ビジョンから再掲）

白馬村の観光地経営を担う多様な主体が連携し、役割を分担しながら一体的に推進する体制を構築する。また、村、観光協会、DMO、事業者、周辺市町村、県などの組織同士が連携し、計画的なプロジェクト推進を図る他、DMOについては組織強化を図りビジョン実現のための中核組織と位置付け、業務の適正規模やそれに応じた予算規模等も改めて検討を行う。また、複数存在する観光推進組織のあり方や会費負担についても望ましい形を検討し、必要に応じて整理を行う。

事業者アンケートでの意見

		自主 財源	補助金	宿泊税
3年間で実施 予定の事業	温泉利用施設連携推進事業【協議会】			○
宿泊税を活用 して実施すべ き事業【提案】	・ 宿泊税活用のための事務局機能強化			

外部環境・内部環境の変化、今後の事業予定等

【外部環境・内部環境の変化】

- ・ 域外からの新規参入事業者の増加
- ・ 地域公社の設立検討

★キックオフプロジェクト:白馬の観光に関わるコミュニティの構築

- ・ 白馬村の観光に関わる主体が多様化してきている中、関係者が責任を持って関与する仕組みを早急に構築する。
- ・ 具体的には、外部資本企業も観光地経営に関わる仕組みづくり、村内に複数ある既存の観光関連組織の見直し検討等を進める。

★キックオフプロジェクト:観光財源の効果的な活用とガバナンス構築

- ・ 令和8年から導入される宿泊税について、取り急ぎ充当すべき事業を検討する。また、受益者負担の観点からより幅広い主体から徴収できる観光財源のあり方や、既存の宿泊税の税額や定率制への変更、宿泊税では充当できないプロモーション費用を創出するための負担金の検討など、より効果的な観光財源の検討を行う。

前期APに入れ込むプロジェクト(案)

★プロジェクト4-6-1. 観光関連組織の役割分担の整理とDMOの機能・組織強化

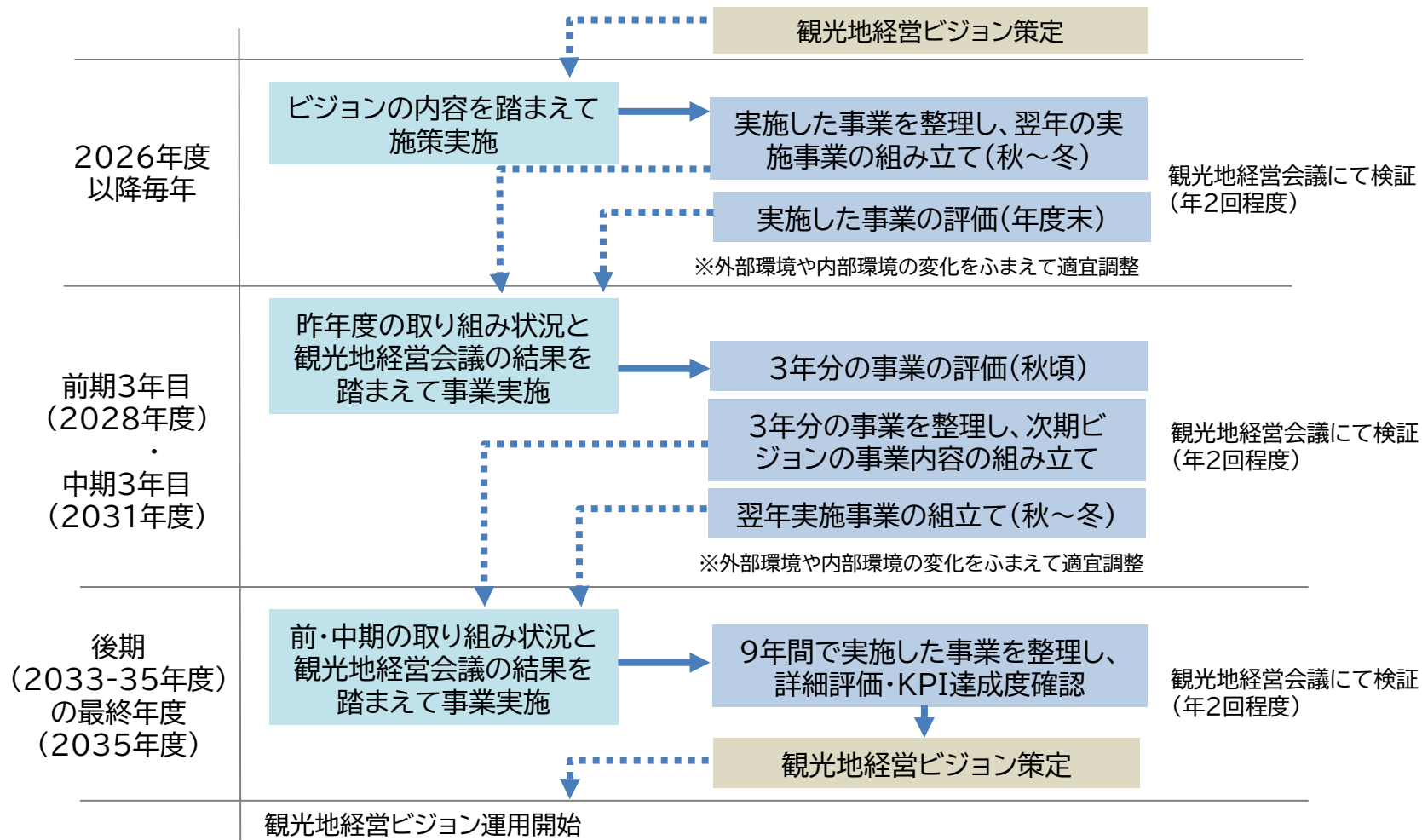
★プロジェクト4-6-2. 観光地経営ビジョン・アクションプランの管理体制の構築

第4章 アクションプランの推進



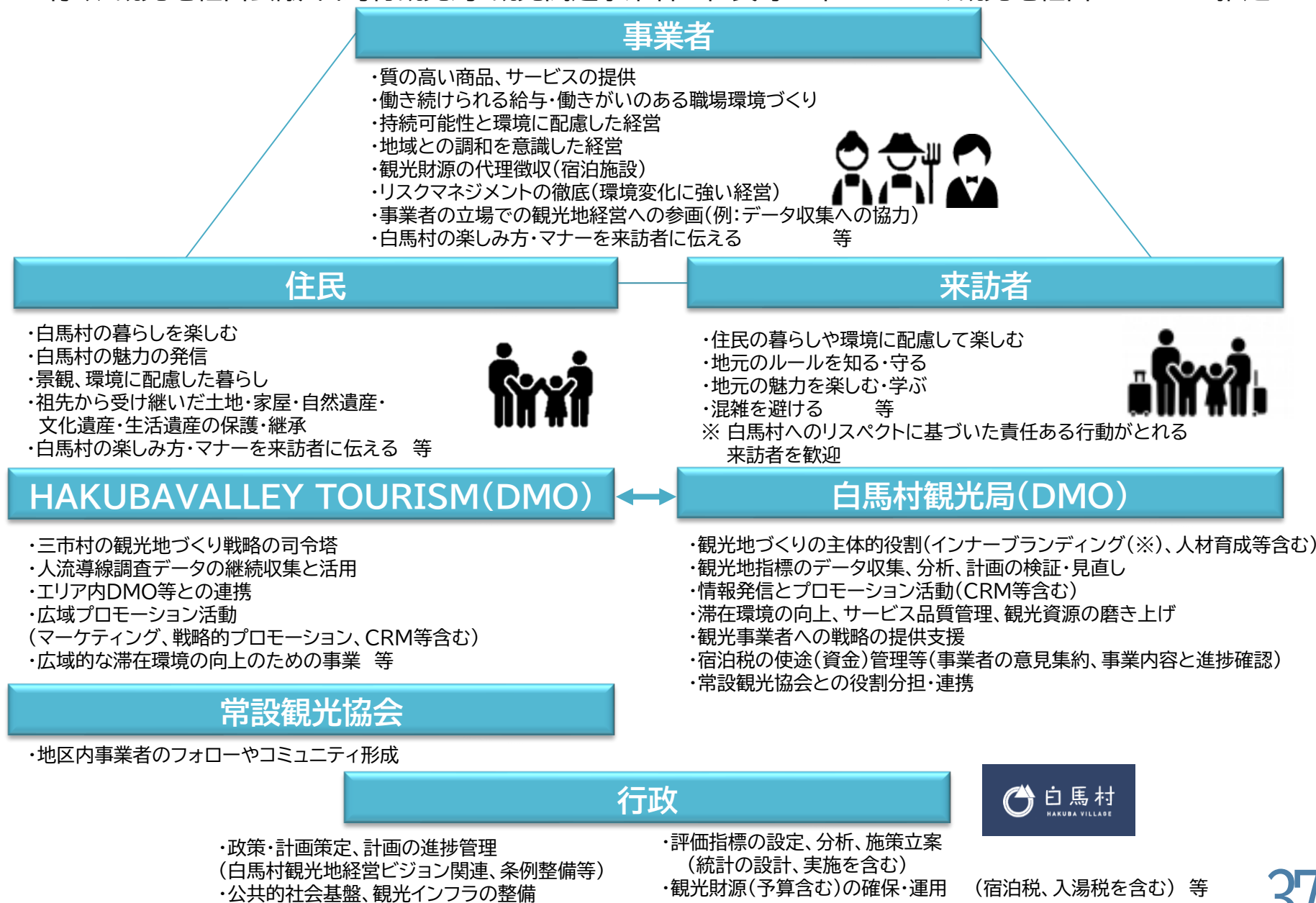
* ビジョンの管理

ビジョンの管理・評価対象	概要	実施時期	実施者
ビジョンに基づく施策	施策の進捗状況の確認・検証 各戦略の目指す到達点を達成できたかどうか 次年度の戦略検討	毎年(秋頃) 毎年(年度末)	観光地経営会議
負担金	宿泊税使途実績・負担金による事業の評価	毎年(年度末)	観光地経営会議
KGI・KPI(成果指標)	数値の把握・数値目標の達成状況 数値の把握方法・数値目標の設定の妥当性確認	毎年(年度末) 適宜	観光地経営会議



* 推進体制

✓ 行政・観光地経営会議・白馬村観光局・観光関連事業者や住民等が中心となり、観光地経営ビジョンを推進



* 宿泊税管理のガバナンス

- ✓ 2026年6月より宿泊税制度を導入(長野県も同時)
- ✓ 本ビジョンは、宿泊税の使途条例(「白馬村持続可能な観光地経営に関する条例」)の中で定められた法定戦略であり、本ビジョンに記載された内容の実現のためには、宿泊税を用いることができる。
※ 本ビジョンのために用いる予算は、必ずしも宿泊税のみではない。
- ✓ 本ビジョンに記載された内容は、DMO内に設置予定である「宿泊税使途計画審議委員会」により運用される。
- ✓ 本ビジョンに記載された内容の進捗確認は、観光地経営会議において行われる。

